

## 7. 地域ごとの医療通訳システム構築についての課題分析

○飯田奈美子（一般社団法人全国医療通訳者協会）

### 【研究目的】

各地の医療通訳システム構築を検討している国際交流協会やNPO団体、実際にシステム構築しているがさらなる発展を望んでいる団体などが参加する会議を開催し、地域の実情に即した医療通訳システムの構築のため、各地域の状況をより詳細に把握し、医療通訳システム構築の課題を抽出し分析していく。また、医療通訳に関する情報交換や各地で蓄積してきたノウハウの交換が行えるネットワーク作りを行っていくことも目的とする。

### 【研究の必要性】

在住外国人だけでなく近年訪日外国人の増加から、全国で医療通訳の重要性が高まっているが、各地域での医療通訳システム構築はスムーズに行えていない。医療通訳システムの構築には、在住外国人の人数や国籍（使用される言語）、在留目的、さらに、医療機関や行政の協力度合いが地域によって異なることから、ある成功モデルをもとにして画一的な医療通訳システムを構築すればよいというわけではなく、地域の実情に沿った医療通訳システムの構築が必要となる。しかしながら、各地の国際交流協会、NPO 団体では、人的予算的不足があり、システム構築を行いたいと考えていても、相談したり情報収集するリソースを各自で持つことができない。そこで、本調査で医療通訳システム構築においてどのような現状でどのような課題があるかを分析し、各地域が情報交換などできるネットワーク作りを行うことで、医療通訳システム構築支援に必要な基礎データを収集する。

### 【研究計画】

医療通訳システム構築に関する問題検討会議を開催する。

- ①昨年当協会で行った事前調査で医療通訳の構築に問題が抽出された東北・中国四国・中部・九州地域に焦点をあて課題分析を行う。
- ②会議参加者は、各地域にある地域国際化協会やNPO 団体の医療通訳システム構築に関する担当で、各地の医療通訳システム構築にかかる現状と課題についての発表してもらう。会議で得たそれぞれの地域内で抱えている問題を抽出し、全国共通問題に関する問題、地域で解決すべき問題に分類し、それぞれ分析していく。
- ③ 参加を呼びかけるのは、地域国際化協会・市町村国際交流協会・NPO 団体や地域の医療関係者、通訳者、大学研究者など岩手県国際交流協会、名古屋国際センター、ひろしま国際センター、北九州国際交流協会などアドバイザーは、RASC コミュニティ通訳支援センター（神奈川）、多言語センターFACIL（神戸）より招聘する。

## 【実施内容・結果】

### ●会議の開催

日時：2019 年 1 月 12 日

場所：兵庫県神戸ポートオアシス

テーマ：「全国の医療通訳システム構築に向けての課題分析」

参加団体（参加者）：

奥州市国際交流協会 渡部 千春氏

(公財)岐阜国際交流センター 春成 浩治氏

(公財)しまね国際センター 横田 敦氏

(一財)熊本市国際交流振興事業団 勝谷 知美氏

NPO 法人多言語センターFACIL 李 裕美氏

アドバイザー RASC コミュニティ通訳支援センター 西村明夫氏

会議形態：NAMI の全国大会と合同で開催。会議には NAMI 会員などの一般参加者も参加し、質問も受け付けた。

### 会議内容

奥州市国際交流協会の渡部氏からは、先行団体の支援を受けつつ Cots に具体的な指導を仰ぎシステム作りをしたこと、また、病院への理解を得る努力をしていることからシステム運用がうまくいっている面もある一方、医療過疎地への派遣や派遣言語数が少なく応じられないことがあるジレンマ、また、通訳への謝礼が低く抑えられていることなどを話された。県内の通訳者人材をどう掘り起こしていけばよいのかということがこれからの課題であるということも挙げられた。

岐阜国際交流センターの春成氏からは、システムができる前から医療通訳研修を行っていたこと、また集住地区があったため、通訳が雇用されている 3 病院があったが、広域に派遣できるシステムはなかった。そこで研修参加者の希望もあり、県の指導によりシステムを構築、実証実験を経て平成 26 年度に本格稼働したと述べられた。また、養成研修の特性として岐阜大学医学部の協力があるとも述べられた。現在の課題としては、養成登録をしてもらっても平日に動ける通訳者がほとんどいないこと、また、ベトナムの方の増加などにより多言語での通訳派遣が必要だが、現在はポルトガル語、タガログ語、中国語での養成しかできていないことなどが挙げられた。

しまね国際センターの横田氏からは、2007 年からコミュニティ通訳ボランティアの派遣を始めたこと、また、その際には先行団体の協力を得ることでシステムができたこと、県が東西に長いことから東部と西部に拠点がおかれていることなどが述べられた。研修の内容が充実してきている一方、通訳者の住んでいる地域が偏在していること、登録していても平日に稼働できる通訳が少ないこと、また昨今急激に増えてきているベトナム語の通訳が登録者の中にいないことなどの問題点も語られた。研修についてはインターネットを使

ってという研修にも取り組んでいるとのことであった。現在のところ、センターの確保している予算で通訳を送ることができているが、今後、件数が増えていくことを考え病院の関係部署と連携をとっていきたいという方向性についても語られた。

熊本市国際交流振興事業団の勝谷知美氏からは、必要性を感じながらなかなか医療通訳派遣事業に取り組めなかったなか、メディカルサポートくまもとという民間団体と協力することで派遣事業を始めることができたこと、2014年に医療通訳のシンポジウムを行い、その後、養成講座を経て2015年度から医療通訳派遣を始めたという事が述べられた。外国ルーツの方に担い手となってほしいと思い、言葉が重要とは理解した上で、多文化理解に力を入れている。また、養成研修のできる基本言語以外の医療通訳を派遣しているときには必ず、職員が病院に同行して日本語の補助をしているということも話された。日中に活動できる登録者通訳が少ないという課題も挙げられた。

NPO 法人多言語センターFACIL の李裕美氏からは、多言語多文化共生のまちづくりの一環として病院での言葉の壁を外す街づくりということで助成金をもらって始めたが、病院を巻き込んでいこうということで病院を巻き込んだシステム事業を始めたところ、あまりにも負担が大きく、コーディネーター機関としてやっていくのが難しくなり民間機関と組んで遠隔通訳を始めた経緯などが語られた。コーディネーター機関は、依頼が増えれば増えるほど苦しくなっていくため、実費を賄うため病院へ会費を払ってもらうようになり、県からもコーディネーター費用として年間100万円の支払いをお願いすることとなったが、改善はなかなか難しく、遠隔通訳事業者と協働することでコーディネーター業務を軽減し、救急、広域の通訳派遣の代替をはかっているが、医療機関が忌避することが多いと述べられた。

改めて課題だと思える点を発表してもらったところ以下のことが挙げられた。

奥州市国際交流協会：周産期の通訳派遣（回数が多い）

岐阜国際交流センター：ボランティアの熱い思いからできたが、高度の通訳も難しく、平日稼働できる人がいない。

しまね国際センター：登録している通訳者の地域偏在。教育の場面ではスカイプなどを使っているが、医療通訳では実際には難しそう。

熊本市国際交流振興事業団：専任がない。研修をやろうとしても（少数）言語のできるスタッフがいない。

多言語センターFACIL：遠隔が使ってもらえない。医療通訳者がプロフェッショナルだと認識していない（医師など）。通訳コーディネーターもプロフェッショナルな仕事だが、なかなか存在が外から見えない仕事なので知ってもらう必要がある。



● アンケート結果、会議内容からの分析

医療通訳システムの構築に関する課題と方策としては、①医療通訳システム選考団体の支援と協力、②医師会、医療機関との連携、③行政など関係機関との連携が必要であり、運営面では、予算の確保や、運営スタッフの確保、通訳者の養成研修とレベル確認の実施、地域間連携について対策が必要であり、先行団体や諸団体の対応方法についての事例をあげて解決例を例示した。詳細は、以下ホームページを参照

一般社団法人全国医療通訳者協会 ホームページ

<https://national-association-mi.jimdo.com/最新ニュース-new/報告書/>

【研究成果と今後の課題】

このプロジェクトによって、医療通訳システムに関する課題をまとめ、問題の解決策について地域の状況にあわせた解決策を示すことができた。既存の医療通訳団体やこれから始めようとする団体、または行政や医療機関に対しても参考になる指南書が作成できたと思う。今後はこの調査結果を全国に広まるように周知案内をしていきたい。助成をしてくださった大同生命厚生事業団に感謝を申し上げます。

【経費使途明細】

使途内容	金額
会議参加者謝金@10,000×6人	60,000円
会議参加者交通費①奥州市（水沢江刺-新神戸）46,820円、②岐阜県（大垣-新神戸）13,100円、③しまね県（出雲-新神戸）15,240円、④熊本市（熊本-新神戸）37,880円、⑤FACIL（神戸）780円、⑥RASK（新横浜—新神戸）30,640円	144,460円
宿泊費 2人（奥州市）（RASK）	20,000円
会場アルバイト@5,000×2人	10,000円
会議司会者謝金	10,000円
印刷費 @10×10枚×100部	10,000円
課題分析協力謝金（アドバイザー西村氏）	50,000円
計	304,460円
大同生命厚生事業団助成金	300,000円

以上